みなおと

NO.2

秋田大学教育文化学部・教育学研究科情報誌 2018. 5. 1

新しく着任した教員からのメッセージ

【教育実践コース】

渡邊 和仁（わたなべ かずひと）講師

はじめまして、新たに教育文化学部に着任しました渡邊和仁です。出身は山形県山形市で、大学入学時に地元を離れてからは主に茨城県つくば市に住んでおりました。この度、東北に戻ってきて仕事ができることを嬉しく思います。趣味はテニス、映画鑑賞、旅行などです。

私の専門分野は運動生理学で、運動中にからだ（特に呼吸循環系）にどのような変化が生じるのか、また、それがどのようなメカニズムで起こるのかについて研究を行っています。最近では、運動時の心血管機能に対する暑熱ストレスや体水分損失（脱水）の影響に着目し検討を進めています。競技スポーツに限らず、学校体育や部活動などを含むスポーツ活動は、真夏の炎天下や真冬の寒い環境下での実施も想定されます。このような環境での運動は心血管系への負担が大きくなりますが、できるだけその負担を軽減し、安全に、かつ効果的にスポーツ活動を行うための方策を探っていきたいと思います。そして、子どもたちをはじめ、あらゆる世代の人々の体力向上を推進することにより、健康で活力ある社会の実現に貢献していきたいと考えています。

授業は、「生理学」、「学校保健」などを担当しています。受講生と議論しながら授業を進め、学生の皆さんの学びや成長をサポートしていきたいと思います。また、着任前はイギリスを拠点として研究活動を行っていました。海外生活の経験を通して学んだことや体感したことも、これからのグローバル社会を生きる学生の皆さんにお伝えできたらと思います。

秋田で生活するのは初めてで、これから県内のいろいろな場所を散策するのがとても楽しみです。秋田の美味しい食べ物や自然豊かな風景をエネルギー源に、精一杯、教育研究活動に取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【特別支援教育コース】

谷村 佳則（たにむら かずのり）准教授

～恩師の言葉を常に忘れずに～

宮崎県にある南九州大学から赴任しました。自分の志望した大学教員の職業とはいえ、岩手県の特別支援学校の教員から、縁もゆかりもない未知の土地への単身での赴任は、大きな不安と希望が入り交じったものでした。このような状態で赴任の日を待っているときに、恩師ともいえる岩手大学教育学部名誉教授の鎌田文聰先生から、次の言葉の書かれた色紙を頂戴しました。

「*教育は人なり 夢なり 心なり 共生と協働を*」

この言葉は、微力ながらも特別支援教育に携わる者として、私自身の大きな心の励みとなり、次代を担う教員養成の職務に前向きに取り組む活力を与えてくれました。この色紙は、今も私の研究室の一番目立つところに掲示しています。

これからの目指すべき共生社会の実現に向けて、特別支援教育の理念や考え方は大切な指針となるものです。また、共生社会の具現化に向けた上でも、将来の特別支援教育に携わる教員の養成は、とても大切な職務と考えています。

恩師の言葉を常に忘れずに、学生の皆さんと共に学び共に育ちながら、５年振りに戻った地元東北の秋田大学で、一歩ずつ歩み続けていきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

【２号館脇の旭水苑の桜（4 月 21 日）】→

【教職実践専攻】

鎌田 信（かまだ しん）教授

この３月に養成・採用・研修を通した一体的な教員育成を推進するため、秋田大学を核とする県内の教員養成課程をもつ大学と教育委員会が協働して、「秋田県教員育成指標」を策定し公表しています。今後は教員に求められる力を養成段階から大学と教育委員会が共有して教員の育成が図られることとなります。そのためにも一層、関係機関との連携を深めて行く必要があるものと考えています。これまでの現場での教員経験、教育機関や教育委員会での経験を生かして、秋田の未来と教育を支える人材の育成に寄与できればと思っています。

〈学生諸君へ〉

学生時代山岳部に所属し各地の山々を登っているうちに少しは山男になった気分でいた頃がありました。年間何日山に入っていたかを仲間と競い合っていた時代でした。当時「必ず登頂してやる」と思っていた山は、近いうちに・・・そのうち・・・と思っている間についには登頂することもなく、月日が過ぎ去ってしまいました。

あの頃登った山は今の私にはもう容易には登れません。いつでも行けると思っている場所は果たして本当にいつでも行けるのでしょうか。志は熱いうちに行動に表すべきであるというのが、学生の皆さんの何十年か前を歩いてきた者からの心からの助言であります。

人それぞれいろいろな意味での山がありますが、皆さんにとっての「山」はどんな形で目の前に聳えているのでしょう。是非恐れず侮らずしっかり登って欲しいものです。

三浦 亨（みうら とおる）准教授

数年先の変化が予測できない激動の時代だと言われています。職業の在り方についても、技術革新等の影響により、今後 10 年程度の間にいま在る仕事の半数近くが自動化される可能性が高いとか、子どもたちの７割近くはいま存在していない職業に就くことになるとか、もっともらしいことを唱える学者もいます。

そのような社会になっても、教師という職業はなくならないようです。いやむしろ、そのような時代になっていくからこそ、膨大な情報の中から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、仲間や周囲の人たちと協働しながら新たな価値を見出していく力を育む教育が必要なのだと思います。

次代の秋田の教育を担う皆さんと一緒に学修の輪に加われることを大変嬉しく思っています。未来の秋田を支える子どもたちを育てるために、ともにがんばりましょう。

奥 瑞生（おく みずお）特別教授

～教師として「いかに生きるか」～

「あなたの研究テーマは」と問われたとき、研究機関である大学の教員であれば、「〇〇教育学」とか、「〇〇実践」など、自ら専門に学ぶ研究テーマを伝えられるのでしょうが、私は中学校教師として、長く子ども達と関わってきたものの、これまで特段の研究らしきものを行ってきたわけではないので、正直なところ研究テーマを述べるとなると難しい部分があります。そのような中で、敢えてテーマを掲げるとすれば、自分が積み重ねてきた教職経験を改めて検証し直し、教師として次代の学校教育を担おうと意欲に燃えている皆さんに、教育文化の継承という観点から、皆さんが将来、学校現場で役立つと思える事柄について、いくらかでもお伝えすることではないかと考えているところです。

また、個人的には、「いかに生きるか」について自らに問い続けており、中学校校長時代には、このことを学校経営の主軸にして教育活動を推進していました。アメリカンインディアンに伝わる言葉、「あなたが生まれたとき、あなたは泣いて、周りの人は笑っていたでしょう。だから、あなたが死ぬときには、あなたが笑って、周りの人が泣くような人生を送りなさい。」

「いかに生きるか」は、たぶん自分の命が尽きるまで、答えの出ない、永遠のテーマであるように思います。今後子どもと関わる職に就く皆さんには、「教師としていかに生きるか」について考えながら、自らの資質と能力を磨いていって欲しいと願っています。

【本部棟 前庭の桜】

鎌田 寿和（かまだ ひさかず）客員教授

～さ　ん　か　く～

学校現場で三十数年勤務しました。小学校６年生を担任したときに話したことの一つに「さんかく」があります。字を書く（思ったことや考えたことは文字で表現してみる）･汗をかく（とにかく体を動かし行動してみる）・恥をかく（勇気をもってチャレンジしてみる）の「さんかく」です。これは、今でいうと就活に必要な要素と思います。

また、教員には「チャチャチャ」の大切さを話してきました。チャンス・チャレンジ・チェンジです。どんな子供にも機会を与え（例えば、発表の苦手な子にはその子に応じた発表の場をつくる）、チャレンジのチャンスを与える。挑戦して失敗したら励まして、小さな成功体験を積み上げ、自己肯定感や自己有用感を高めていく。すると子供は変わってくる（変容）・・・教職を目指す学生たちにもこのようなことを話していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【３号館中庭の桜】

【国際文化コース】

Horton William Bradley 准教授

4 月から教育文化学部国際文化講座に着任したブラッド・ホートンです。こんにちは！

出身は米国ウィスコンシン州の州都マディソンです。高校の時、1 年間インドネシアに留学し、これがきっかけでインドネシア研究という専門に落ち着きました。熱帯地域の研究者が、雪国の秋田でうまく適応できるかと心配される方も多いと思いますが、安心してください‼インドネシアでの 1 年間以外、子供のころから大学院修了まで、極寒地で生活していました。

簡単に経歴を言いますと、ウィスコンシン大学で東南アジア地域研究と言語学の学士を取得、その後ミシガン大学の歴史研究科で 19 世紀後半から 20 世紀中盤頃までのインドネシアの文学、特に流行小説を分析しながら、歴史を綴るという研究に取り組みました。当時の社会の言論に対する政治的力とその隙間を縫うように、小説という形をとりながら、作者が思いのたけを表現した文書を、当時の社会の文脈で理解するという、人類学と歴史学を掛け合わせた研究をしました。

インドネシアでの現地調査が一区切りつき、米国へ戻る 2000 年ころ、偶然にも日本で生活するようになりました。以来、インドネシア近現代研究のなかでも、海外で最も研究の難しさを指摘されてきた第 2 次世界大戦期のインドネシアの歴史研究に着手するようになり、このテーマで早稲田大学で博士（文学）を取得しました。最近は、1930 年後半～1960 年という、植民地時代から第 2 次世界大戦期そして東西冷戦期へと、世界的に政治的地殻変動の起こったころのインドネシアの社会史について、医療・医学を中心にしながら理解する研究にも力を入れています。

趣味は研究で、それ以上でもそれ以下でもありません。ただ、インドネシア、オランダ、米国やイギリスまたオーストラリアについては、図書館や公文書館のこと以外でも、いろいろ知っていますので、これらの国々に興味のある学生はぜひ研究室へ遊びに来てください。

「秋田の弁護士と死刑制度について語る会」

４月４日 16:10～17:30 に標記の会が 3-150 で開催され、学生 10 名、弁護士８名、司法修習生２名、大学教員３名が参加しました。参加した地域社会コース４年の吉田恭幸さんに概要・感想を書いてもらいました。

地域文化学科地域社会コース４年　吉田恭幸

１．概要

初めに、再審請求中に死刑囚が執行された事例が紹介されました。この死刑囚は、最高裁で死刑判決が確定してから、18 年後の昨年に死刑が執行されました。

続いて、死刑そのものや死刑囚に関するお話がありました。まず、一般の人が死刑囚に面会したり、手紙を送ったりすることは原則として、許されていないことが紹介されました。この原則が死刑の実態がよく知られていない所以でもあり、マスコミの取材も許されず、情報開示もないとのことでした。2016 年の死刑囚に関する統計も紹介され、死刑が確定したのが３名、死刑が執行されたのは３名、死刑確定者の総数は 129 名（12 月末現在）といったデータが提示されました。死刑確定者数の総数が 129 名と多いのは、再審請求などで執行されない死刑囚が多いことが理由の１つとなっています。そのうち、70 名の死刑囚が東京拘置所に収容されています。

講師の弁護士の方による、死刑に関するレクチャーが終わると、弁護士の方は出席した学生に、死刑制度に賛成か反対かを尋ね始め、その理由も尋ねていました。賛成・反対の学生の理由は、以下の通りです（一部を紹介）。

【賛成派】

・殺人を犯した死刑囚を生かしておくことに納得がいかない。

・１度殺人を犯した人を社会に戻すと、一般市民の日常生活に支障をきたす恐れがある。

【反対派】

・刑の執行によって、自然な死に方が全否定されてしまう。

・懲役刑との差が大き過ぎる。

・刑を執行しても、被害者遺族の苦しみが癒えることはない。

2014 年の世論調査では、国民の約８割が死刑制度に賛成していましたが、出席者の間ではほぼ同数という結果になりました。また、事例によって、賛成か反対かの判断が分かれるという声もあり、再犯の有無により、左右されるという意見がありました。

講師の弁護士の方と学生間の意見交換が終わると、再びレクチャーに入りました。最初に、死刑制度の存置派と反対派の根拠となっていることがそれぞれ紹介されました。存置派には、法的確信・犯罪抑止力・遺族の感情鎮静・再犯の可能性除去の４つが、反対派には、誤判・廃止の世界的な潮流・非人道性の３つが根拠となっていました。さらに、死刑制度を廃止している国が 141 か国もあることや再審請求で無罪が確定した元死刑囚が４名いること、そして、アメリカでの執行失敗率（1890～2010 年）が 3.15%であることが紹介されました。また、死刑執行の様子を目撃したある議員による、「首が折れ、眼球が飛び出し、鼻血や粘液を垂れ流していた」という被執行者の生々しい様子を説明していました。この話を受け、「無理に執行するよりは、無期懲役・終身刑にする方が望ましい」という見解を述べた学生もいました。

２．感想

日本で存置されているものの、その実態があまり知られていない死刑制度について、今回の会で学びながら、深く考えることができたと思います。また、そのようなことができた有意義なものでもありました。

死刑囚が執行されると、即座に流れてくるニュースや死刑を題材とした作品などに目を通したこともあったので、死刑制度については、認識しているという自負がありました。しかし、「死刑囚とは面会・手紙のやりとりは不可能」という原則や死刑確定者の総数が 100 人を超えることなど、知らなかったことがあったことに気付かされました。これを機に、理解しているようで理解していなかった死刑制度について、学ぶことができたのは、大きかったです。

しかし、それ以上に、他の学生が死刑制度に賛成と反対のどちらの意見をもっていて、なぜ賛成

または反対と考えているのかについて、聴けたことが１番の収穫でした。私は賛成の立場で、その理由は「身勝手に奪った命を、命で償うことによって、均衡を保つ必要がある」というものでした。自分と同じ賛成派の意見を聴いて、他にもこんな理由があるのかと首肯したと同時に、立場の異なる反対派の意見を聴いて、死刑執行によるデメリットについて、考えさせられました。また、刑が執行された際の死刑囚の生々しい描写を想像した時は、死刑囚に同情しそうになりましたが、やはり「奪った命は、自分の命で償うべきである」という考えが変わることはありませんでした。

死刑制度について、色々学んだり、他の学生の意見を聴いたりしたことで、自分の考えなどがより一層深まったと感じました。今回学んだことを忘れずに、今後も死刑制度について、もっと考えていきたいと思います。

【講師の大野鉄平弁護士】

２０１８年度外部資金の採択・受入

2018 年度の日本学術振興会科学研究費補助金で、以下のものが新規に採択されました。

研究種目	審査名	研究代表者		研究課題名	期間	経費合計（円）
基盤研究(C)	中国文学関連	羽田	朝子	日本占領地における中国知識人の「抵抗」と「協力」の交錯――女性作家・梅娘を中心に	平成30～33年度	3,770,000
基盤研究(C)	日本語学関連	大橋	純一	調音構造の多角的分析による北奥・南奥方言の音声対立とその動態に関する新研究	平成30～33年度	2,210,000
基盤研究(C)	教育学関連	佐藤	修司	大震災を契機とした地域・学校の復興・再生と人口減少社会への対応に関する研究	平成30～32年度	4,550,000
基盤研究(C)	子ども学および保育学関連	山名	裕子	幼児期の認知発達にふさわしい教育とは：子どもが「遊び」の中で学んでいること	平成30～33年度	4,160,000
基盤研究(C)	教科教育学および初等中等教育学関連	佐藤	学	教師・学習者の発展的な思考・態度を習慣化する授業実践モデルの開発	平成30～33年度	4,290,000
基盤研究(C)	教科教育学および初等中等教育学関連	外池	智	地域における継承的アーカイブと学習材としての活用	平成30～32年度	4,030,000
基盤研究(C)	特別支援教育関連	武田	篤	複合的場面緘黙児の実態解明と教育機関と第三者機関の連携した支援の実践と効果の検証	平成30～33年度	3,640,000
基盤研究(C)	特別支援教育関連	藤井	慶博	ICT活用による病気学習支援システムの構築に関する研究	平成30～33年度	2,080,000
基盤研究(C)	体育および身体教育学関連	佐藤	靖	球技指導における「処方能力」の構造―ハンドボール授業の例証分析を通して―	平成30～32年度	4,030,000
若手研究	数理解析学関連	原田	潤一	接合漸近展開を用いた非線形熱方程式の解析	平成30～33年度	1,820,000

＊経費には直接経費（研究者に交付されるもの）だけでなく、間接経費を含む。

また、独立行政法人教職員支援機構の 2018 年度「教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業（教職大学院等研修プログラム開発事業）」として、本学部から申請していた「新たな教員育成指標と研修体系に対応し『秋田の探究型授業』の継承と発展を目指す養成・研修一体型プログラムの開発」が採択されました。単年度ですが、約 240 万円が交付されます。教職大学院及び教育実践研究支援センターが中心となり、秋田県総合教育センター等と連携して事業を推進する予定です。ご協力をお願いいたします。

２０１８年度教育研究・運営カウンシル

役　職	氏　名	備　考
学部長	佐　藤　修　司	学内委員
副学部長	林　　良　雄	学内委員
副学部長	佐々木　和　貴	学内委員
学校教育課程主任	三　戸　範　之	学内委員
地域文化学科主任	柴　田　　健	学内委員
秋田市教育委員会教育委員	石　田　英　憲	外部委員
秋田県教育庁教育次長	眞　壁　聡　子	外部委員
秋田県あきた未来創造部次長	真　壁　善　男	外部委員
秋田商工会議所会頭	三　浦　廣　巳	外部委員

【外部委員の方々】

カウンシルとは学校教育法の改正に伴い、2015年度から設置されたもので、教育研究カウンシルと運営カウンシルからなります。

教育研究カウンシルは、①教育課程の編成、②教員の採用及び昇任等、③教育研究に関する規程等の制定･改廃､④教育研究に関する重要なこと、を審議します。

運営カウンシルは、①学科その他重要な組織の設置廃止、②予算、③運営に関する規程等の制定・改廃、④運営に関する重要なこと、を審議します。

４月 25 日に第１回のカウンシルが委員全員出席のもと開催されました。今回より、新たに教育実践研究支援センター長、附属学校経営委員長、学部長補佐が陪席することとなりました。

意見交換の中では、学校教育課程の小学校教員希望者が少ないことの原因や対応策、秋田県の教員育成指標や研修体系との関わり、秋田県庁での学部・地域文化学科卒業生の数の増加、県内企業への就職の増加に向けた取り組みが取り上げられました。

特に今後、秋田県庁内での卒業生の集まりを設けること、商工会議所との関係を強めて、コアカリキュラムの実施や卒業生の県内就職に努めていくこと、地域連携協議会を立ち上げて、行政や企業との関係を強化していくこと、学部研究科通信の記事作成に外部委員の方のご協力をいただきたいことなどの発言がありました。

【整備された３号館３４４教室前のホール】

【３号館３階廊下から眺める桜】→

２０１８年度事務部等（本学部・研究科関係）の体制

【5 月 1 日現在】

事務長　柳谷　勉

総務担当
- 総括主査　川辺朋矢
- 主　　査　髙橋　翼
- 事務職員　工藤和昭
- 髙橋愛子
- 事務系スタッフ　赤坂宏美
- 佐々木紹子
- 鈴木蘭子
- 真田心子
- 高山美千世
- 船木真人
- 井川早苗

会計担当
- 総括主査　工藤忠正
- 事務職員　梁田鈴子
- 事務系スタッフ　長尾徳子

附属学校園
- 事務室長　森田康幸

総合学務課（教育文化担当）
- 主　　査　牧野洋子
- 主　　任　阿部加奈子
- 事務職員　杉澤　明
- 小松一幸
- 事務系スタッフ　松田志保
- 長沢善仁

入試課（教育文化担当）
- 総括主査　赤津光洋
- 事務系スタッフ　今井七菜子

学生支援・就職課
- 事務職員　畠山友花
- 事務系スタッフ（就職情報室）　村上勝子
- 信太恵子

技術部
- 総括技術長　成田堅悦
- 技　術　長　毛利春治
- 小林　到
- 技術専門職員　若杉　圭
- 山下清次
- 技術職員　綿谷健佑

↑【教育文化学部４号館１階：総務・会計】

【学生支援棟：学務】→

＊３号館 342 教室が固定机・椅子から可動式の机・椅子になりました。
＊アクティブ・ラーニング型の授業に活用できます。

今年の秋田市の桜は 4 月 17 日に開花、20 日に満開となりました。桜も梅も木蓮も一斉に咲き始める秋田の遅い春がやってきました。北国の春は喜びもひとしおです。キャンパスも桜の花で明るくなりました。（4/27 記）

・発行　秋田大学教育文化学部／教育学研究科・
・TEL　018-889-2509　FAX 018-833-3049　・
・http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/　・